

反動の嵐に抗して！

2010年
11月20日
No. 6

JR 東海労働組合
大台両所分会
発行者 西村泰弘
編集 教宣部

会社が社員を追いつめる職場で生まれるもの

台検で働く若い社員が自ら命を絶ってから3ヶ月が経ちました。将来のある若者が自ら命を絶つというのは、精神的にかなり追い詰められていた証左でもあります。

東海会社では彼だけが自ら命を絶っているわけではありません。私達が知るだけでも、東海会社で自殺した社員はここ数年で10数件にも上ります。特に2006年と2007年に自殺した社員は、会社の看板商品である「のぞみ号」に飛び込み自ら命を絶っています。このことは何を意味するのでしょうか？

社員が「のぞみ号」に飛び込み自殺！

会社から受ける様々なプレッシャーなど、耐え切れない怒りや悩みをぶつけられないやり場のない気持ちを、抗議の意味を込め看板商品の「のぞみ号」に飛び込むことで表したのではないのでしょうか？！

過度な社員管理が生み出すものは

今、会社の各職場の実態はどうでしょうか？作業終了後も本来業務でないQCや業研などに半ば強制的に参加させられ、さらには休日の過ごし方や携帯番号までも聞き出し、プライベートな時間まで会社が管理しようとしています。

このような会社の対応に相談する相手もなく、相談してもすぐに会社に筒抜けになるような状況の中で、精神的に追いつめられ悩みのはけ口を見出せない社員も多くいると聞きます。徹底した社員管理によって、精神的ストレスから病気になり入社拒否症に陥る社員も多くいます。

会社が社員を抑えつければ抑え付けるほど、社員はますます委縮するばかりです。

社員が萎縮しながら働いていては、ストレスがたまり心の病になるのではないのでしょうか。社員がストレスをためずに働ける職場を造るために、会社にモノを言ってみましょう！